

こんにちは。お世話様です。

皆様、明けましておめでとうございます。お世話様です。昨年中は皆様に大変、お世話になりました。皆様の為に、家の事を知ってもらいたくて始めた情報誌も、早3年目に突入します。そこで、今までちゃんとした名前がなかった事に気付き、この情報誌に名前を付けたいと思いました。名前は、この情報誌が皆様と我社の架け橋となり、皆様にたくさんの幸せが訪れますように、「**虹色通信(なないろつうしん)**」と、虹を架け橋にイメージして名付けました。

さて、20回目のお話を始めたいと思います。今回は去年の構造偽造事件を受けまして、いつもの住宅のお話と違い、マンションの事をお話したいと思います。少し専門的な部分があり、難しいかも知れませんが、知っていて損はないと思いますので、お話したいと思います。

これからお話しする内容は、私が東京の建設会社に勤めていた時のお話です。私はこの建設会社に勤めていた5年間は、全て鉄筋コンクリート造の建物でした。今回、写真例に挙げた建物は東京都杉並区に建てられた、3階建てのマンションのお話です。

このマンションは平成2年に建てられました。当時、バブル景気の真っ只中であり、マンション等の物件もかなりの数が建設されていました。この地域は区の都市計画上、高い建物が建てられない地域でしたので、3階建てのマンションでした。

写真1をご覧ください。これは柱の鉄筋を写したものです。下の黒板に書いてある意味を説明します。「柱C1配筋 主筋D-25 HOOP D-13@100」とあります。この意味は、「柱番号C1は、主筋が25ミリの太さで、HOOP(フープ筋・帯筋とも言い、柱筋に帯のように丸く取り付けられている鉄筋)が13ミリの太さで、@100(100ミリ・10センチ間隔)で取り付けられている」という意味です。写真の目盛りの付いた物差しがありますが、HOOP筋の間隔が正しく取り付けられているのか、証拠で写真を撮り、提出します。これは、公共・民間の仕事のどちらでも行なっており、設計図面と間違いなく施工されているか、確認するのです。

写真2をご覧ください。「梁B1配筋 上筋6-D19 下筋6-D19 あばら筋D10-□-@200」とあります。これの意味は、「梁番号B3は、主筋が19ミリの太さで、上・下に6本ずつに配筋し、あばら筋(ダイヤ筋とも言い、梁筋に帯のように丸く取り付けられている鉄筋)が10ミリの太さで@200(200ミリ・20センチ間隔)で取り付けられている」という意味です。

また**写真3**をご覧ください。これはスラブと言って、1階と2階の床に当たる部分の配筋写真です。写真に「スラブS1配筋 短辺上下 D10-200@ 長辺上下 D10-250@」とあります。これは「スラブS1は、短辺(配筋するスラブが長方形の場合の短辺方向)が上下供 10ミリの太さで200@(200ミリ・20センチ)の配筋・長辺が10ミリの太さで上下供、250@(250ミリ・25センチ)の配筋」という事です。鉄筋は上下というように2重ではなく、1重の場合もあります。写真は長辺方向の寸法を、物差しで測ってます。

これらの写真から、私が何を言いたかったのかと申しますと、工事施工者は図面に従った工事を行なっています。もしも、その図面が不正に設計されていても施工業者はわかるはずで、それをそのまま施工してしまった業者も、世の中にはいるという事です。それを皆様が見抜く事は容易な事ではないと思います。



写真1



写真2



写真3

しかし、疑問と感じた事は、業者に問いかける事は必要な事だと思われま。ご参考になさって下さい。

M-ONE HOME

集い(つどい)

(株)モリケン

TEL:(0268)68-2225 FAX:(0268)68-2196 森田携帯(090)2215-8356

URL:http://www.moriken-motto.com

E-mail:mail-info@moriken-motto.com